

令和 6 年度 公約推進のためのまちづくり懇談会 質 疑 応 答

日 時：令和 6 年 11 月 9 日（土）午後 4 時～5 時 30 分

場 所：美喜仁桐生文化会館 4 階 スカイホール

参加者：一般 100 名、報道機関 1 名 合計 101 名

質問者 A	私が数十年前、初めて桐生市にきた時は、当初桐生市の人口は 12 万人を少し超えていたと思う。今では人口が 10 万人切るか切らないかというところまできているが、それについては、まず子どもが少なく、高齢者も当然年数が経つにつれてだんだん減っていくという少子高齢化が一つの原因であると思う。 桐生市の人口が 10 万人を割り込むといった報道がなされるなど、桐生市の人口減少対策について関心がある。 市長の説明の中で、「女性・若者から選ばれる桐生市」といった話があったが、市長は、人口減少による影響についてどのように考えているか。また、今後、女性・若者から桐生市が選ばれるためにどのような対策をしていくつもりなのか。
市 長	人口減少対策は今に始まった問題ではなく、15 年・20 年前から分かっていた問題であり、しっかりとその対応を図ってこなければならなかったというのが現状である。全国的に少子高齢化が進展する中で、桐生市では高齢化率が高いことも大きな課題である。そのような中、国立社会保障・人口問題研究所が人口推計を出しているが、桐生市の人口が 2040 年には 74,000 人、さらには 2060 年には 47,000 人になるであろうという推計が出されている。それを何とか食い止めるため、桐生市総合戦略推進委員会を設置し、本市が目指すべき人口の将来展望を協議し、2040 年には 83,000 人、2060 年には 61,000 人までの減少に抑えようという目標を掲げており、この差が人口減少対策として取り組む事業であると考えている。 一方では、国がしっかりと取り組んでいかなければならない大きな問題であり、国家の危機とさえいえるようなことであるため、国とも連携して取り組まなければならないということや国が主導権を持って取り組んでいただきたい問題でもある。過日、民間の有識者らでつくる「人口戦略会議」が全国 744 市町村を「消滅可能性都市」として位置付けたが、桐生市もその内の一つで全自治体の 4 割強が同様に位置付けられている。今重要なことは、地方創生といわれている中で、地方が持っている強みを生かし、その地方独自の特徴を出していき、足りないところは他の自治体と連携・協力をしながら補っていくという都市間連携・都市間協力が求められている。 今回出された「消滅可能性都市」の位置付けについては、まるで少ない人口を近隣の自治体で取り合うことを助長しているように感じており、私は違和感がある。桐生市としては、桐生市なりの将来の姿をしっかりと示さなければならないと思っており、そのために

	は、中長期的な桐生のあり方を見据え、どのような取組に投資していくのか、しっかりと検証しながら各種政策を作り上げていくことが大事であると考えている。 そのような中、「女性・若者から選ばれる桐生市検討委員会」から「女性・若者から選ばれる桐生市提言書」が提出されたが、私は、過日の市議会において、人口減少に対する 5 つの提言を行い、一番大切なことは「桐生独自の教育」を広く発信することであると考えている。 先ほども説明したが、桐生市には群馬大学理工学部の学生が子どもたちに理科の授業を教えるサイエンスドクター事業、親子で体験する未来創生塾、小中一貫校の黒保根学園、今年 6 月にオープンした tsukurun 桐生のデジタル人材育成拠点があること、また、デジタル人材育成に大変定評があり、東京の池袋にある ISI 学園について、企業が求める実践的な職業教育を行い、卒業したら即戦力として活躍できる学生を育てているが、同学園と包括連携協定を締結し、桐生市内 6 高等学校から 1 校につき 1 人ずつの指定校推薦枠をいただくことができた。そのほかにも、R 高校や観光ガイドのジュニアアンバサダー制度、ミニきりゅうの取組などを有機的に結び付け、上手に情報発信することにより、これまでも例のない日本でも類まれな「教育学園都市」を PR できると考えているため、その辺には特に力を入れてこれからの人口減少対策・少子化対策に取り組んでいければと考えている。
--	--

質問者 B	市長の説明や映像でも紹介があったが、角川ドワンゴ学園の桐生女子高校跡地を活用した R 高校の開校は、大変嬉しく思う。R 高校は、通信制ということだと思うが、具体的なイメージが湧かないのでどんな高校なのか、もう少し詳しく教えていただきたい。 また、R 高が開校するに当たって、市長はどのようなことに期待しているか、併せて聞かせていただきたい。
市 長	角川ドワンゴ学園の通信制の高校について、全国で 3 番目として桐生市を選んでいただいたことについては、大変ありがたいと思っている。これも山本知事をはじめ、群馬県の協力があって実現したが、誘致については熟考する必要もなく、即決で判断させていただいた。 R 高校は、大手出版社の KADOKAWA と IT 企業のドワンゴが共同で設立したインターネットを活用した通信制高校である。お笑いタレントの明石家さんまさんが出演している同学園のテレビ CM をご覧になった方もいらっしゃると思うが、日本で最大の通信制高校となっている。 今、既に開校している N 高と S 高については、3 万人を超える生徒数となっており、R 高については定員 2 万人として募集をしているところである。また、進学実績も非常に高く、東大、京大をはじめ、早稲田、慶應などの難関私立大学にも多数の合格者を輩出してい

	るほか、オリンピックやスポーツ活動に長けているアスリートの方も多く在籍しており、海外遠征や大会へ出場する合間に、どこでも、いつでも勉強ができ、スポーツに取り組む方にも非常に有利な学校となっている。 R 高が開校するにあたり期待することについては、大きく分けて 2 点あり、1 つ目としては、スクーリングというものがあり、通信制の高校であるが、高校卒業資格取得のために約 4 日間は桐生の本校に来て、直接授業を受けなければならないという必修授業があるということで、仮に定員の 2 万人定員に達した場合は、単純計算すると年間約 3 5 週に渡り、1 週当たり約 2 0 0 人が桐生に滞在し、毎週入れ代わりで桐生に訪れていただくこととなる。この 4 日間の中で、桐生市に滞在し、宿泊や飲食による滞在費のほか、土産品等の購入などによる地域経済の活性化が図られるものと期待している。 また、2 つ目として、地域交流による波及効果であり、今年の桐生ファッションウィークでは、N 高、S 高の生徒さんが実際に体験学習プログラムとして参加するなど、既に地域住民や企業との交流が始まっている。 今後、スクーリングを通して多くの生徒さんが全国から桐生に来るため、来ていただいた生徒さんにまずは桐生のファンになっていただき、次に桐生の魅力を色々な方々に PR していただくことにより、関係人口や交流人口の増加につなげ、最終的には桐生へ住んでいただけるような取組ができればと考えている。 R 高については、梅田地区の方々へこれまでも色々と担当より説明をさせていただく中で、非常にご理解をいただきながら進めることができたため、まずは梅田地区の方々の優しい思いやりの気持ちに対して厚く感謝し、その思いに報いるためにも、この R 高を桐生にしっかりと根差して発展できるようにこれからも取り組んでいきたいと考えている。
--	---

質問者 C	自治会の運営に関して質問させていただく。今年度から防犯灯の電気料金を、市が全額負担していただけるということで、各自治会・町会は非常に喜んでいることと思う。自治会は、高齢化等により組織役員の成り手不足などが課題となっている。このような状況のなか、市長は今後自治会運営について、どのような考えを持っているのか。
市 長	自治会・町会の活動については、コミュニティの根源であると考えており、一番小さい単位の中でしっかりと構築しなければ地域の活性化・まちの活性化につなげることができない大切な組織であると考えている。そのため、役員の成り手不足や自治会・町会が運営できないということは非常に大きな問題として捉えている。 そのような中、区長の皆さんと意見交換をする中で、対策として出させていただいた取組の一つとして、防犯灯電気料金について市が全額負担することや、地域担当職員制度として各区に 1 人ずつ配置して、地域の現状・課題を把握し、一緒に解決していこうという取組をしているところである。

	自治会活動は防犯活動など、いわゆる「共助」という点では大変重要な役割を担っていただいており、身近なところでは令和元年に発生した台風 19 号では、桐生市で初めて避難勧告が発令され、2 千人超の方が避難所で一時避難したことがあったが、その際に中心的な役割をしていただいたのが区や自治会・町会の皆さんの方々だった。「自助」はもちろん重要だが、「共助」・「公助」につなげる中間的な組織としてやはり自治会の方々の取組は非常に大切であるため、これからも持続可能な運営ができるようにどのようにしたら良いか、地域の方々と意見交換を重ねながらより良い考えを模索していければと思う。 自分自身が考える自治会・町会のあるべき姿は、地域住民に頼りにされるものであれば、多くの方が参加していただけたと思う。特に防災の面が大きいと思うが、一人暮らしの方など、災害に陥った際に自治会・町会がどのような役割をしてくれるのか、また、どのような役割をすることにより地域の方の助けになるのかということを積極的に PR する中で自治会運営が行われれば良いと思う。 いずれにしても、自治会・町会については、自治意識の高い方々の集まりであると思う。今後、人口も減少する中で、市職員も減り、当然市職員の関わる役割も変わっていくと思うため、地域の方々が地域のことは自分たちで守り、自治意識の高まりを持っていただくような取組、意識の高揚につながるようなことについても一緒に考えていきたい。
--	---

質問者 D	3 点程質問させていただきたい。まず最初に、人口減少について、県内 12 市においても桐生市はかなり深刻な状況であるということは承知しているが、全国的な問題となっており、国も経済的な支援をしたとしても人口減少に一向に歯止めがかかっていない状況であるため、角度を少し変え、今は、結婚する喜びや子どもを作る喜びという価値観が薄れていると思うため、やはり意識改革を図るためにも、小学校や中学校の頃から教育していくことが重要であると考え。結婚したくない方や、結婚しても子どもは作りたくない方など、人それぞれ考えもあり、中には子どもを授かりたくてもできない方もいるため、人権問題も真剣に考えながら、学校・地域・家庭が中心となり、意識改革を図ることにより、国からの経済的な支援を受けなくとも人口は増加していくと思う。ただし、人権問題もあることから国もこの点は触れていないが、やはり一般的に考えれば今の世の中であれば、子どもの一人や二人産める環境にあると思うため、価値観の意識改革を教育することで深刻な人口減少問題は解消していくと考えている。ぜひ桐生市においてもそのような教育を先端となって行ってほしい。 2 点目は、生活保護の問題であり、今日も冒頭に市長も謝罪していたが、私も第三者委員会を傍聴したりしているが、非常に難しい内容であり、開催されるたびにテレビ放映や新聞へ掲載されるなど報道され、それだけ重要なことであると理解しているが、報道に取り上げられると桐生市のイメージが悪くなってしまうと思うため、この問題については、早期解決についても考えなければならないと思う。
-------	---

	3 点目は、八木節まつりやえびす講などの祭りについて、桐生の祭りについては県内でも一番であると考えており、桐生市民のすごいパワーを感じ、非常に素晴らしいと思っている。その市民力があれば、必ず桐生市は良い方向に進むと信じているところである。そのような中、今年のえびす講では、福男選びを実施するということであるが、大々的に報道されると思うため、マスコミを通じて桐生市の良いところが全国に広げられるようしっかりとPRしていただきたい。
市 長	人口減少問題に関する価値観、意識改革を行うということについては、私自身もそのように変えていかなければならないことは感じている。人口が増えたからといってまちが幸せかといったら必ずしもそうではなく、人口を奪い合い、残ったまちが幸せかといったらやはり違うと思う。要するに、そのまちに住む方が人口が減ったとしても心豊かに幸福度を高められ、行政についてもサービスを低下させないようなことができれば、まちの活性化が図られると思うため、そのようなことを目指して人口減少対策に取り組んでいきたい。 また、意識改革の教育の部分については、検討してまいりたいと考えるが、桐生市には「ミニきりゅう」という取組があり、子どもたちが自分たちでルールを決め、様々な仕事を行い、子どもたちだけの仮想のまちを作り上げるというものであるが、このような取組を幼い頃から体験し、社会の仕組みも考え、人と人との助け合いや協力しながら物事が出来上がっていくという桐生独自の取組となっているため、子どもたちにしっかりと伝えていきたい。また、小規模特認校の黒保根学園においては、少ない生徒児童に対し、先生と一緒にマンツーマンで教育を行うという少人数ならではのきめ細かな指導や特色ある教育を行っており、こちらも桐生独自のものであり、子どもたちの価値観についてもこれまでとは違った形のものが出てくると思う。その他、子どもを産むことなどについては、個人の考えやポリシーもあるため強制できるものではないが、子どもを産みやすい環境づくりについては、行政として当然やらなければならないものであると思う。そのような意識の改革と子育て環境の整備を両立させることができれば、解決していく一つの糸口になると思う。 また、生活保護の問題については、しっかりと内容を整理し、改善するところはしっかりと改善し、ご指摘を受けるところはしっかりと受け止めて、取り組んでいかなければならないと思う。当然、早期に解決することは大事なことであると思うが、しっかりと検証し、調査を行い、二度とこのようなことが起きないような体制を作ることが重要であると思っているため、しっかりと解決できるように取り組んでいきたい。 えびす講の福男選びの件については、私も非常に楽しみにしているところである。行政としてPR など協力できることがあるようであれば、しっかりと対応していきたい。